

シナイ通信

第36号

令和2年 5月31日

NPO法人 シナイモツゴ郷の会



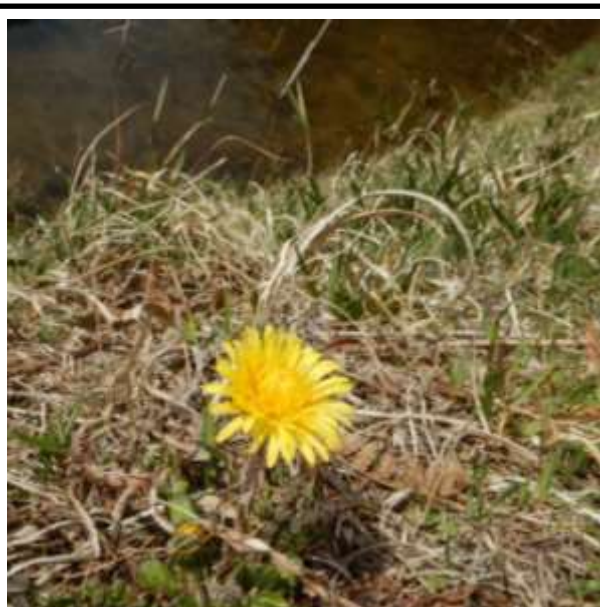
TEL 080-1832-8437

MAIL kiyotaka.totosh@gmail.com

WEB <https://www.shinaimotsugo.com>

〒989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚字

小谷地 504-1 鹿島台公民館内



目次

ページ

表紙 早春の大崎市里山のため池 (2020年3月28日)

試験池に産み付けられたニホンアカガエル卵塊 (左) と堰堤に咲くニホンタンポポ (右) 1

2019年下期の活動報告 事務局 2~3

理事長就任のご挨拶 高橋清孝 4

水辺の自然再生ミニシンポジウム・地域研修会(2/22 大崎市開催) 5~8

アメリカザリガニ防除の技術開発と実践 長谷川正智・高橋清孝 8~15

シナイモツゴ郷の会環境大臣表彰を受ける 二宮 景喜 16

鹿島台郵便局の新風景印にシナイモツゴ登場
記念カードも発売 二宮 景喜 17

水辺の仲間たち -その19- サハリントビケラ 長谷川政智 18~19

シナイモツゴ BBC 通信の紹介 事務局 20

世界農業遺産「大崎耕土」と連携し自然再生活動推進

「みどりの日」自然環境功労者環境大臣賞受賞

効果を発揮する新開発アメリカザリガニ連続捕獲装置

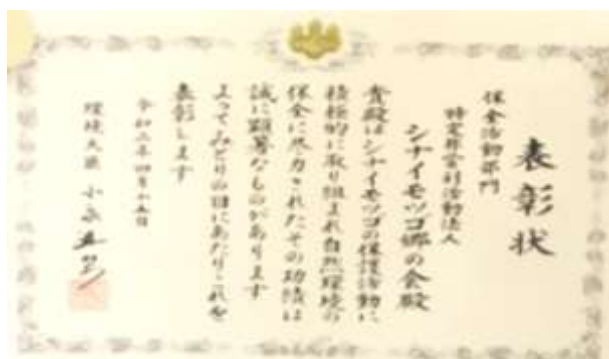
新型コロナウイルス乗り越え広範な活動を開始

2019 年度下期の活動（11～4 月）

2 月から急拡大した新型コロナウイルスは行動自粛など全国民へ深刻な影響を及ぼしています。当会は月例の理事会の開催を取りやめ、メール会議で活動計画などを検討し、書面評決で理事による新理事長の選出などを行いました。様々な制約を受けながらも、5 月以降は地域住民主体にため池のアメリカザリガニ防除など自然再生活動を再開しました。

令和 2 年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞

4 月 14 日に「(法人化以後) 18 年にわたり、営農団体や自然保護団体と連携し、絶滅危惧種であるシナイモツゴの保護活動に取り組むとともに、アメリカザリガニの先駆的な駆除技術を開発する等、自然環境の保全に尽力。」したことが評価されました。4 月 24 日に二宮元理事長が宮城県自然保護課長から表彰状をいただきました（右写真）。詳細は p ● と下記の環境省 URL をご覧ください。<https://www.env.go.jp/press/107949.html>



コロナを乗り越えシナイモツゴ里親活動など次世代継承事業を再開

5 月下旬からシナイモツゴ里親小学校の活動を開始しています。各小学校では飼育方法の簡便化など計画変更しながら、稚魚の飼育や特別授業などと取組ことになっています。

おおさき生き物クラブによる小川の観察会は大崎市世界農業遺産推進課と連携した 8 月上旬に開催予定です。さらに、里親が育てたシナイモツゴ稚魚の放流会は、9 月下旬に宮城県で開催される「豊かな海づくり大会」リレー放流の一環として 9 月上旬に開催する方向で企画中です。

改良型連続捕獲装置で地域住民と連携してアメリカザリガニを捕獲

ゼニタナゴなど貴重な水生動物を保全するため、今年からアメリカザリガニ防除をさらに強化して実施中です。2019 年に開発しただれでもできる新たな連続捕獲装置を駆使し、地域住民主体にア

メリカザリガニの捕獲を実施しています。さらに、捕獲したアメリカザリガニは中華料理などで有効活用を進めます。

豊饒の大地「大崎耕土」世界農業遺産ブランド認証

世界農業遺産に認定された大崎地域（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）で生産された米のブランド認証を受け付けます。認証されると、ブランド認証品マークを使用できます。この制度は、多くの人と「大崎耕土」の価値を共有し、さらに向上させる取り組みを進め、地域の農業を次世代につないでいくことを目的にしています。大崎地域全体で、環境や生きものへの配慮を行いながら、生産者の取り組みを支援する先進的な制度です。

これまで先駆的な役割を果たしてきたシナイモツゴ郷の米づくり手の会（代表：吉田千代志氏）によるシナイモツゴ郷の米も世界農業遺産ブランド認証米として登録されました。是非、ご購入いただき、彼らの活動を支援し、同時に豊かな自然を堪能していただければ幸いです。



世界農業遺産ロゴマーク

（大崎市公式 WEB から）

先人たちの努力で築かれた用水路やため池などにより、一大農耕地帯となった大崎耕土。水管理の歴史と継承の上に成り立つ豊かな自然、人々の暮らし、農作物などの恵みがあふれ、人々のつながりや生きものとの共生、豊かな景観が形づくられてきました。そんな大崎耕土の特徴を、水の「青」と植物の「緑」をイメージカラーに、シンプルで軽やかに表現する、これからの未来のための風通しの良いイメージを持つデザインにしました。

大崎耕土 世界農業遺産



GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

- ・豊かな自然環境
- ・人々の暮らし
- ・居久根
- ・多様な生態系
などをイメージ
- ・水管理の歴史と継承
- ・江合川と鳴瀬川
- ・張り巡らされた用水路
- ・ため池や遊水地
などをイメージ

理事長就任のご挨拶

新理事長 高橋清孝

新型コロナウイルス感染症対策で会議開催もままならない状況の中、4月初めに新理事さん方の書面評決によりご指名いただきました。2002年のシナイモツゴ郷の会発足以来、副会長と副理事長を20年近く務めてきましたが、この度、理事長の重責をお引き受けすることになり、まさに、身の引き締まる思いであります。

前理事長の二宮景喜さんには10年の長きにわたり理事長を務めていただきました。この間、先頭に立って東日本大震災など幾多の困難を乗り越え、特にシナイモツゴ里親活動では中心的な役割を果たし里親制度を確立されました。長年の尽力に心から感謝申し上げます。

今年度計画について

当面、コロナ感染症対策を最優先に配慮しながら、安全かつ確実に成果を達成したいと考えています。

特に、当会主催で最大のイベントである全国水辺の自然再生共同シンポジウムは会場開催を断念し、WEB開催する予定です。また、当初予定していた県外出張は全て取りやめ、他道県で実施予定のアメリカザリガニ防除実証実験も電話やメールで協議して実施することになりました。

里親小学校でも飼育方法の簡略化などを進め、実態を考慮し現実的に対応します。



一方、ザリガニ防除技術の開発と実践は各方面から期待されていることから、野外活動中心に地域内での重点実施を計画しています。

長期計画について

当会は20年間にわたり、だれでもできる技術の開発、里親制度やシナイモツゴ郷の米認証制度などによる地域ぐるみの取組を行ってきました。今後はこれらの活動を継続し発展させ、豊かな自然の有効活用を進めることにより、自ら活動資金を確保する方法を積極的に検討します。

さらに、活動の継承と拡大を図るため、啓発活動を強化します。シンポジウム、研修会、小学校の特別授業、書籍の発刊などこれまで以上に取り組むしたいと思います。

会員の皆様と常に意見交換し、協力しあいながら目標達成に向け行動します。どうか、よろしくお願いいたします。

水辺の自然再生ミニシンポジウム・地域研修会

テーマ：里山里地水辺の自然再生と保全活動

期日：2020年2月22日（土）14：00～17：30

場所：大崎市鹿島台 尾楯会館

主催・共催：NPO 法人シナイモツゴ郷の会、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会



2020年水辺の自然再生ミニシンポジウム 里山里地水辺の自然再生と保全活動

内容：里山の水辺周辺の自然再生にかかわる課題を中心に11題を話題提供し議論しました（写真1）。講演1では世界農業遺産推進（写真2）とため池のゼリタナゴ（写真3）や植物（写真4）の保全の3題。講演2のポスターセッションで

は淡水魚の観察ポイントやアメリカザリガニ対策関連の取り組みをポスターや実物を展示し発表（写真5）。講演3では雌1尾だけで増殖するザリガニ（写真6）やアメリカザリガニ対策の新知見（写真7,8）が報告されました。総合討論では

ゼニタナゴの保全について中心に意見交換しました。

次 第

講演 1

1) 世界農業遺産「大崎耕土」と自然共生の取組

武元将忠（大崎市産業経済部世界農業遺産推進監）

2) ゼニタナゴ保全の取り組みと課題

藤本泰文（宮城県伊豆沼内沼環境保全財団）

3) 大崎市鹿島台の丘陵地に生育する蘚苔（コケ）植物

横山正弘（宮城植物の会）

講演 2 ポスターセッション

4) 誰でも観れる宮城県内における淡水魚の観察ポイント

久保田龍二（シナイモツゴ郷の会）

5) アメリカザリガニの有効利用～レシピ集①～

坂本 啓（シナイモツゴ郷の会）

6) アメリカザリガニの有効利用～中華料理店における試験販売～

内藤朝陽（シナイモツゴ郷の会）

7) シナイモツゴ郷の米づくり手の会の取組み

吉田千代志（シナイモツゴ郷の米づくり手の会）

8) 簡易なアメリカザリガニ連続捕獲装置（展示）

高橋清孝・長谷川政智・内藤朝陽・根元信一（シナイモツゴ郷の会）

室田欣弘（UW クリーンレーク洞爺湖）

講演 3

9) 1匹だけでも増えるザリガニ：ミステリークレイフィッシュ

池田 実（東北大学女川フィールドセンター）

10) アメリカザリガニの防除と効果

長谷川政智・内藤朝陽・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

11) 自動給餌機を使わないアメリカザリガニ連続捕獲装置の開発と実証実験

高橋清孝・長谷川政智・内藤朝陽・根元信一（シナイモツゴ郷の会）

総合討論（座長：高橋清孝、佐藤弘樹）

Q（座長）：藤本氏の講演についてです

が、ゼニタナゴが産卵する二枚貝の減少

要因として、食害、環境悪化、過剰産卵

など個々の減少要因が知られている。私

たちはアメリカザリガニによる二枚貝の食害が多数見られるので、これにより減少した二枚貝が、最終的に過剰産卵によって大きなダメージを受けると考えている。これらの関係についてどのように考えていますか？

A（藤本）：その通りだと思う。他の水生生物の存在や水質などが減少要因となるのだろう。池が大きいほうが安定しやすいように感じる。今後、解明していく必要がある。貝とタナゴのバランスが崩れると過剰産卵により両者とも、さらに、減ってしまう。

Q：過剰産卵について、どう対策すべきか。産卵時期である秋に、貝を短期間のみ入れて産卵数の抑制を試みたことがあったが、やはり集中的に産卵しうまく行かなかった。

A（藤本）：ゼニタナゴは、既に産み付けられている貝を避けるが、貝に対してタナゴが 20 倍以上いると抑制が効かなくなる可能性がある。

Q：かつて多く見られたタイリクバラタナゴを見かけなくなった。なぜか。

A（藤本）：ゼニタナゴと同じく、産卵基質とする貝が減っていることが大きい（藤本）。

A（高橋）：2000 年前後に多くのため池でブラックバスが侵入し食害により全滅し

た。これにより激減したことが考えられる。

Q：横山氏から当地里山の植生について大変貴重な情報提供していただき感謝しています。時間が足りなかったようなので、追加情報があればお聞きしたい。

A（横山）：講演では蘚苔(コケ)植物についてしか扱わなかったが、水草も調査している。かつて、鹿島台のため池では水草が繁茂していたが、アメリカザリガニによって 2010 年頃から多くの池で見られなくなってしまった。直近ではシナイモツゴ郷の会がザリガニを減らしており、また種子は 10 年程度のあいだ長期休眠するので、そろそろ再び見られるのではないかと期待している。ミズオオバコ、クロモ、ミズヒキモなど。

Q：近年、かつては厚く凍結していたため池が地球温暖化の影響か、全面的には凍結しなくなった。生物に対する影響はあるか。例えば、貝と、その中で越冬するゼニタナゴの関係に対してなど。

A（藤本）：地球温暖化の影響は大局的であり、すぐには分からないが、ゼニタナゴの過剰産卵が見られるようであれば、何らかの対策を打つ必要があり、現在はその方法を検討している。

Q：(池田氏の講演について) ミステリークレイフィッシュは 15℃を下回ると繁殖しないとのことだったが、同種が誕生し野

生下に広がっているドイツの冬は 15℃を下回るのではないかと推測されている。

がっているのか分からないため、詳細不明。

A（池田）：湧水池などだと温度が高くなりやすい。ドイツのどのような水域に広

アメリカザリガニ防除の実践と効果

1. 目 的

宮城県により絶滅危惧Ⅰ類、環境省により絶滅危惧ⅠA類に指定されているシナイモツゴ及びゼニタナゴの絶滅リスクを低減し、生存に適したため池環境を維持・保全するため、水生植物の食害による水質悪化、二枚貝の捕食などによるゼニタナゴ産卵基質の減少などを引き起こしているアメリカザリガニの効率的な駆除方法の開発に取り組み、その効果を検証した。

2. 調査実施河川・湖沼

宮城県大崎市旧品井沼周辺ため池群を対象に主に 桂沢ため池で実施した。

3. 調査期間

2019年4月～2020年3月

4. 調査結果

(1) 捕獲結果

i) 捕獲数量

表1 旧品井沼周辺ため池群におけるアメリカザリガニの捕獲数(2019年4月～2020年3月)

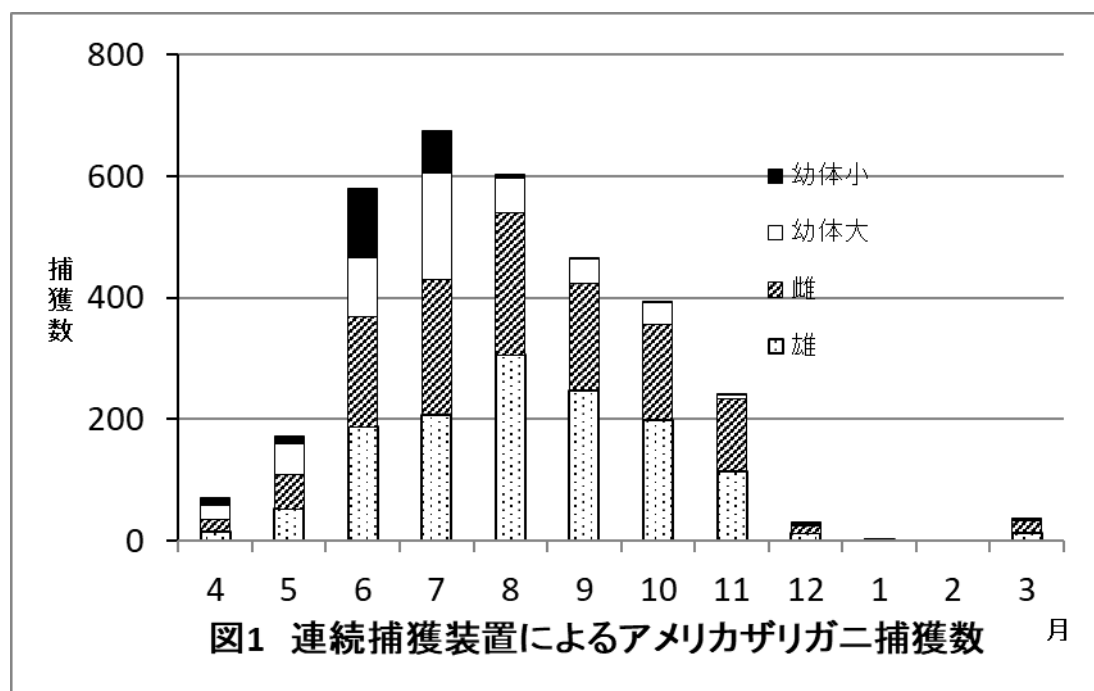
漁法	捕獲場所	月 数・回数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
連続 捕獲装置	桂沢上段	捕獲数	72	280	580	676	603	466	395	239	30	2		95	3,438
		捕獲回数	1	3	4	4	4	2	2	2	1	1		2	26
	桂沢下段	捕獲数	71	248	695	608	631	900	403	101	44	7		43	3,751
		捕獲回数	1	3	5	4	4	4	2	2	1	1		2	29
定置網	桂沢上段	捕獲数	109	96	228	139	74	38	40	8	2				734
		捕獲回数	1	3	4	4	5	3	3	2	1				26
しばづけ	桂沢上段	捕獲数	48	410	490	360	320	169	141	29	12				1,979
		捕獲回数	1	3	4	4	4	3	3	3	1				26
	桂沢下段	捕獲数	50	303	874	626	1,030	761	339	99	33	33			4,148
		捕獲回数	1	3	4	4	7	4	3	3	1	1			31
新型連続 捕獲装置	桂沢下段	捕獲数			716	286	769	994	397	30	28	3		13	3,236
		捕獲回数			4	3	5	4	2	2	1	1		2	24
アナゴカゴ	桂沢上段	捕獲数			153	221	457	789	364	40	7	4		19	2,054
		捕獲回数	1	3	4	4	4	2	2	2	1	1		2	26
新型連続 捕獲装置	赤入道ため池	捕獲数		39	74	47	67	60	0	55	115	68		68	593
		捕獲回数		1	2	1	1	1	0	1	1	1		2	11
合計	桂沢上・下 段・赤入道た め池	捕獲数	350	1,376	3,810	2,963	3,951	4,177	2,079	601	271	117	0	170	19,933
		捕獲回数	1	3	4	4	4	3	3	3	2	2	0	1	30

連続捕獲装置、定置網、しばづけにより、2019 年 4 月～2020 年 3 月にアメリカザリガニを合計 19,933 頭を捕獲した。

ii) 各漁具による捕獲状況

① 連続捕獲装置

2017 年に連続捕獲装置を開発しアメリカザリガニの捕獲が容易になった。2018 年から、普及を図るため、小型軽量化した改良型捕獲装置も導入して捕獲している（右写真）。5 月～翌年 3 月に設置して捕獲した結果、桂沢ため池の 2 つの池で計 6,963 頭を捕獲した（図 1）。

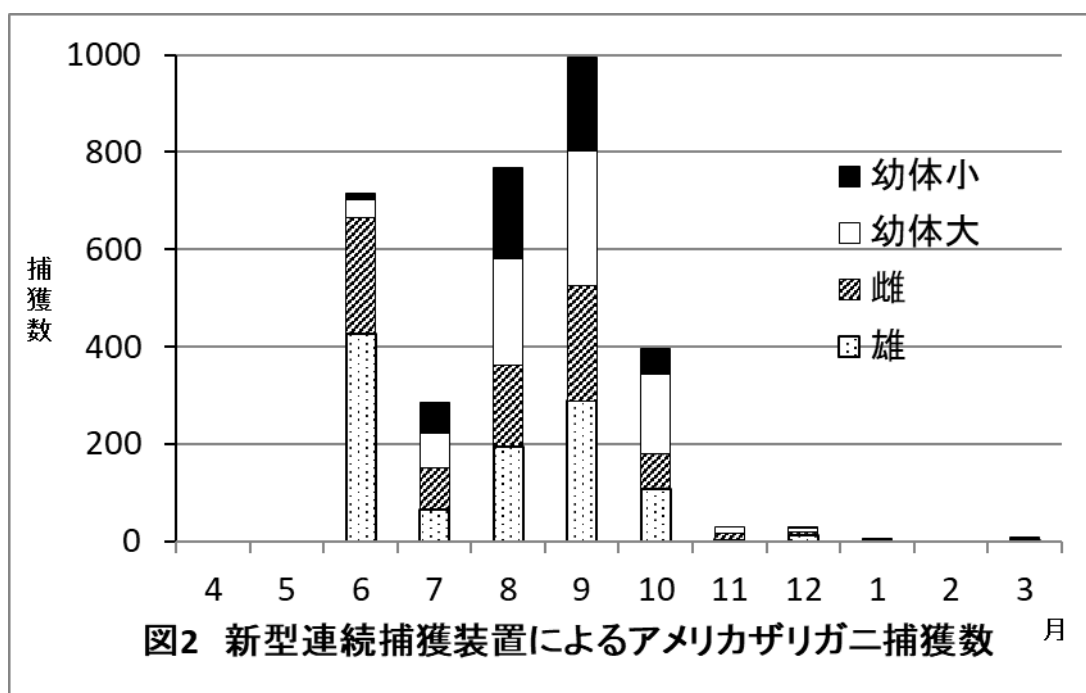


② 新型連続捕獲装置による捕獲

大崎市里山のため池では自動給餌機を備えた連続捕獲装置によりアメリカザリガニを捕獲し低密度を維持している。これを広く普及するためには、簡単化とコストダウンが求められることから、自動給餌器を使わない連続捕獲装置を試作し、実証実験を行った。

5～3月の捕獲試験により、桂沢ため池に設置した2台で3,232頭、赤

入道ため池に設置した1台で573頭を捕獲した。この結果、新型連続捕獲装置は自動給餌機を搭載した連続捕獲装置と同等の捕獲能力を有することが分かり、大幅にコストダウンすると共に簡単化により地域住民による捕獲が可能になった。



③ しばづけ用人工藻の開発



連続捕獲装置はアメリカザリガニの成体(成熟個体)や大型幼体を優先的に捕獲するが、体長 6cm 以下の小型幼体の捕獲は限定的である。これに対し、しばづけはアメリカザリガニ小型幼体を捕獲するために有効な漁法である。これまでスギの枝葉(左上写真)やナラ葉などを使用していたが、入手困難な場合もあり短期間で交換する必要があるため新たな材質が必要とされた。平成 30 年度はスギ枝葉(左上写真)とノリ養殖網(右上写真)で人工藻を作成し、捕獲量の比較試験を実施した。この結果、ノリ養殖網の捕獲数がスギ枝葉を明らかに上回ったことから、2019 年 5 月からは一部を除き素材を杉の枝葉から中古の養殖ノリ網を使用することで、小型幼体を効率的に捕獲できるようになった。2019 年 5 月～12 月に設置し、小型幼体主体に桂沢上段ため池で 734 頭、桂沢下段ため池で 1,979 頭、合計 2,713 頭を捕獲した(図 3)。

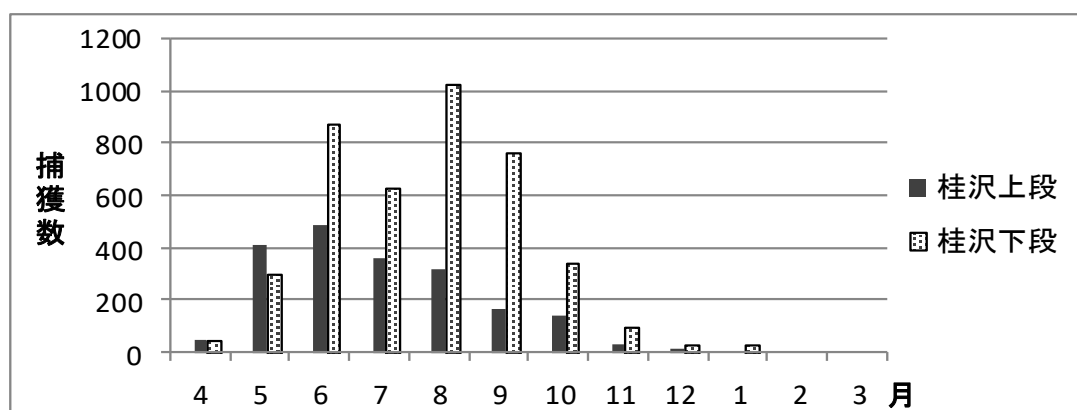
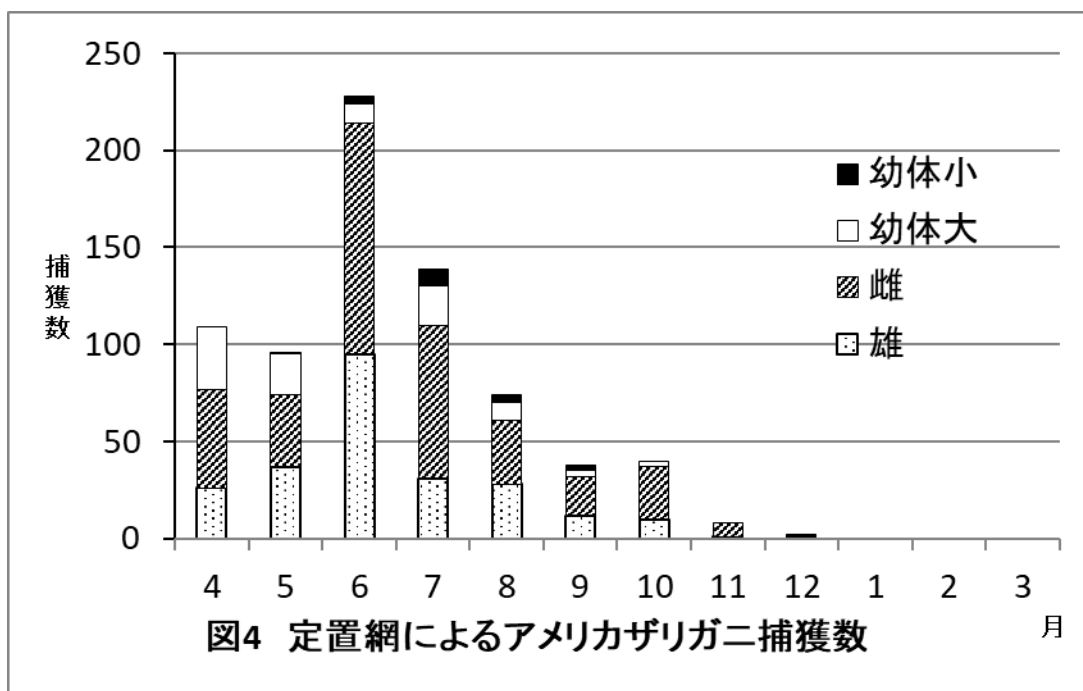


図 3 しばづけと人工藻によるアメリカザリガニの捕獲数

④改良型小型定置網による捕獲



アメリカザリガニ アメリカザリガニ雌は巣穴などで産卵し腹枝に付着させて抱卵する。ふ化後は、稚ザリガニを腹部に抱いたまま、活発に移動し、生育に適した水域へ稚ザリガニを放出し生息場を拡大する。これを防ぐため小型定置網を設置し移動個体を捕獲する（左上写真）。しかし、漁網で作成した小型定置網を移動経路の浅場に設置すると、アメリカザリガニが大量入網した際にイタチなど肉食性小型動物が定置網を破壊して内部のアメリカザリガニを捕食することが多くなった。2018年から小動物による破壊を防ぐため、コンテナやプラスチックネットを使用して小型定置網を作成した。プラスチック製小型定置網を使用することにより、アメリカザリガニの移動経路における周年設置と効率的な捕獲が可能になった（右上写真）。



2019年には桂沢ため池の上段と下段ため池の連絡水路に設置し、上段ため池へ侵入するアメリカザリガニを捕獲した。この結果、合計734頭を捕獲した（図4）。9～10月には稚ザリガニを抱いた雌が多く捕獲されたことから、上段ため池におけるアメリカザリガニの繁殖を抑制

したと考えられる。

⑤各種捕獲器による捕獲数の推移

2016年から2019年における桂沢上段ため池と下段ため池の各捕獲具による平均捕獲数の推移を図5に示した。上段ため池では、連続捕獲装置としばづけ（人工藻を含む。）は捕獲開始に比べ平均捕獲数が大きく低下している（図5）。下段ため池では、連続捕獲装置の平均捕獲数は緩やかに減少したが、しばづけ（人工藻を含む。）の平均捕獲数は変化が見られなかった（図6）。定置網の捕獲数は年によって大きく変動した（図7）。上段ため池では全域に捕獲用漁具を設置し集中的な駆除を継続した結果、駆除開始後3～4年目の平均捕獲数は開始年の1/4程度で推移し、低密度で管理されている。これに対し、下段ため池では堰堤部中心に全池の1/3程度の面積で駆除を実施しているため、駆除実施区域では未実施の高密度生息域から常に加入があるものと考えられる。また、定置網は2018年にプラスチック製に改良したことにより一時的に捕獲数が増加したが、2019年には下段ため池では新型連続捕獲装置3台を新たに導入し大量捕獲した結果、上段ため池へ移動するザリガニが減少したためと考えられた。

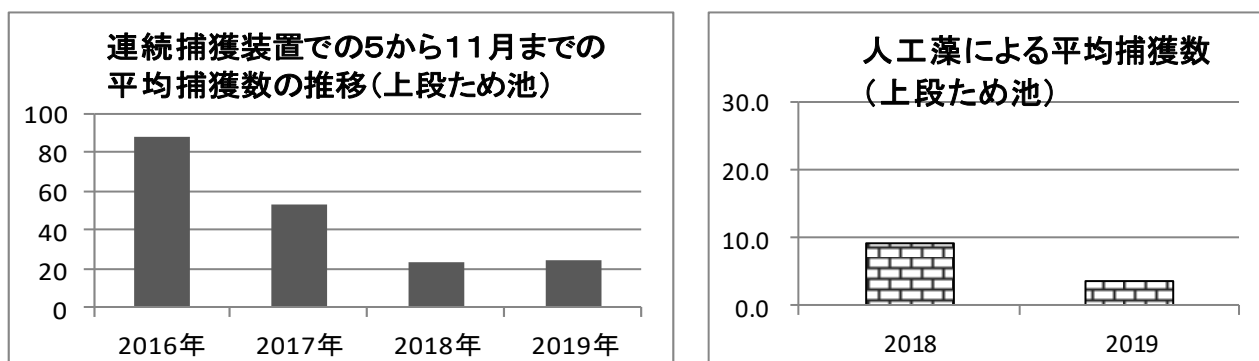


図5 桂沢上段ため池の各捕獲具による捕獲数の推移

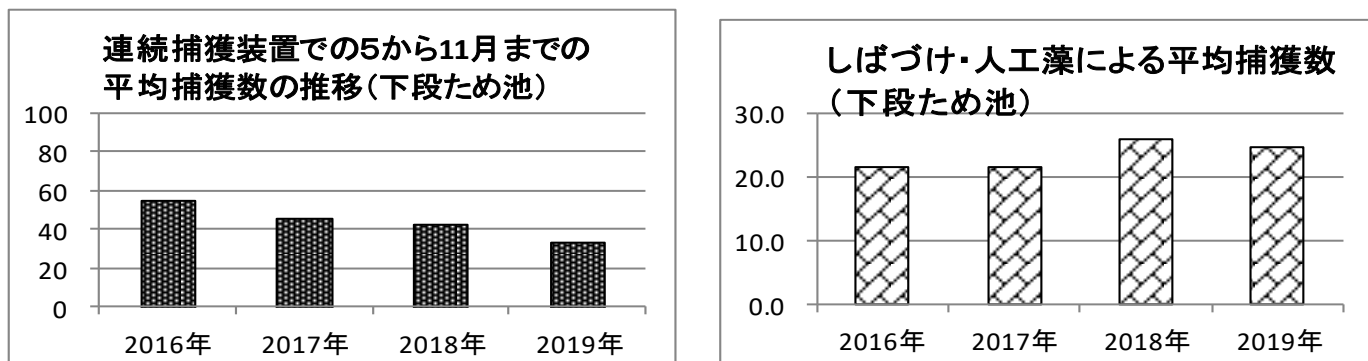


図6 桂沢下段ため池の各捕獲具による捕獲数の推移

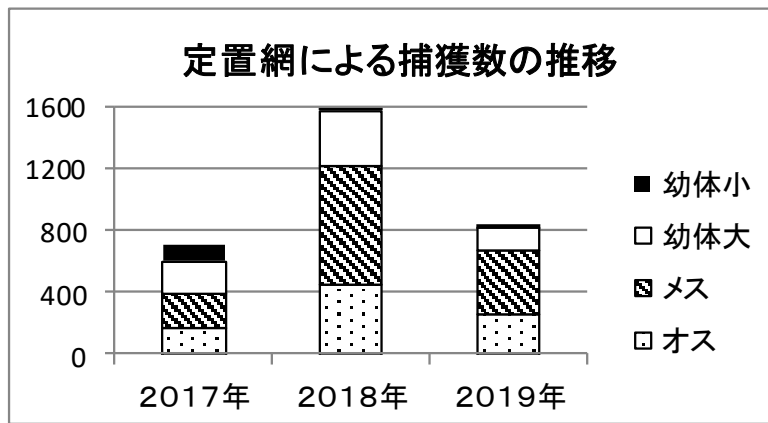


図 7 定置網による捕獲数の推移

(2) アメリカザリガニの捕獲後の水生生物の変化

桂沢下段ため池では、連続捕獲装置としばづけ（人工藻を含む。）によるアメリカザリガニの平均捕獲数には大きな変動が見られなかったものの捕獲を継続している区域では、捕獲される魚類に変化が見られた。2016 年 12 月 31 日にはシナイモツゴが 6 尾とハゼ類 6 尾（図 7）が捕獲され、2020 年 1 月 11 日にはシナイモツゴが 62 尾とハゼ類 26 尾（図 8）が捕獲された



（図 7）2016 年 12 月 31 日に捕獲された魚



（図 8）2020 年 1 月 11 日に捕獲された魚類

また、これまで確認されなかった準絶滅危惧の水生昆虫ミヤケミズムシ（図 9）が 2018 年に確認され、2019 年から 2020 年にかけては、人工藻に産み付けられたミヤケミズムシの卵（図 10）と幼虫が確認され駆除実施区域で繁殖が行われた。



（図 9）捕獲されたミヤケミズム



（図 10）人工藻に産み付けられたミヤケミズムシの卵

下段ため池では、2019 年の目視での確認でコサナエやモノサシトンボの成虫をこれまでより多く見る事ができた。このように駆除を継続することにより生物の復元が可能でありアメリカザリガニの駆除がため池では必要なことと認識できた。しかし、生袋ため池、宮の沢ため池、赤入道ため池では、目視調査でアメリカザリガニの生息が確認されるので、今後の取り組みが必要とされている。

シナイモツゴ郷の会、環境大臣表彰を受ける

二宮景喜

4月15日付で、本会は令和2年度『「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』を受けました。自然環境の保全について国民の認識を深めることを目的に、環境省が平成11年度から毎年度行っているもので、今年は、全国から4部門合計37件が選ばれています。

本会の表彰は、保全活動部門で、「18年にわたり営農団体や自然保護団体と連携し、絶滅危惧種であるシナイモツゴの保護活動に取り組むとともに、アメリカザリガニの先駆的な駆除技術を開発するなど自然環境の保全に尽力した」のが表彰理由です。

長年の郷の会の活動全体が、環境省に認められものと思いますので、皆様とともに慶びたいと思います。

4月15日の環境省での表彰式には私が代表で出席する予定でしたが、コロナ騒ぎで表彰式は中止となり、4月24日に宮城県の佐々木康栄自然保護課長さんから、鹿島台公民館において、表彰状と記念品を伝達していただきました。そのうちに皆さん



にご披露いたします。

このような経過をたどりましたので、この慶事は新聞やテレビなどでも全く取り上げてもらえず、その点は残念に思っております。詳細は環境省のホームページをご覧ください。

《表彰文》

表彰状

保全活動部門
特定非営利活動法人シナイモツゴ郷の会殿

貴殿はシナイモツゴの保護活動に積極的に取り組まれ、自然環境の保全に尽力されたその功績は誠に顕著なものとあります。

よってみどりの日にあたり、これを表彰します

令和2年4月15日
環境大臣 小泉進次郎

鹿島台郵便局の新風景印にシナイモツゴ登場 記念カードも発売

二 宮 景 喜

令和 2 年 5 月 18 日に、鹿島台郵便局の風景印が 35 年ぶりにリニューアルされました。今回の風景印は特産のデリシャストマトで枠取りをした変形印で、図案にはわらじ村長鎌田三之助翁の銅像、互市の露店と買い物客、そして豊かな自然を代表するものとしてシナイモツゴを加え、鹿島台を強くアピールするものになっています。

風景印はあまり知られていませんが、多くの郵便局に備えられていて、希望により郵便物に消印として押されます。郵便物は全国に配達されますので、使い方によっては、地域をアピールする有効なツールとなります。風景印に絶滅危惧種の淡水魚が描かれるのは珍しいことで、その点からも、シナイモツゴを全国の人に知っていただく有効な手段になりますので、皆さんの郵便にこの風景印をぜひお使いいただきたいと思います。

さて、新しい風景印ができることは、何十年に一度の特別のことですので、後々まで残るような記念品、あるいは遠くに住む家族や知人へのプレゼントになるようなものとして、「新風景印記念カード」を作り、新風景印にあわせて 5 月 18 日から販売しております。

作成に当たっては私が代表になり、町内の 7 団体のご協力のもとに記念カード作成員会を立ち上げました。シナイモツゴ郷の会にもご協力をいただいています。

記念カードは、はがきサイズ、三つ折り、6 ページ。2 枚の切手を貼り、新旧の風景印をそれぞれ最終日及び初日に押し、さらに鹿島台の紹介、図案になったシナイモツゴなどの解説を加えたものになっています。1 枚 300 円で販売しますが、シナイモツゴ郷の会の皆様には是非ご協力いただくようお願いします。家族あるいは友人のためにさらにお買いいただければ、うれしく思います。

鹿島台とシナイモツゴの PR になりますので、今後の郷の会の参加するイベントなどでも、参加者あるいは一般の方に販売していければと思っています。ご購入のご希望は二宮までご連絡ください（電話 0229-56-5671）



2020年5月18日

水辺の仲間たち ―その19―

サハリントビケラ

長谷川政智(シナイモツゴ郷の会)

水辺の仲間たちその17でトビケラ2種を掲載しました。その中でサハリントビケラ *Asynarchus sachalinensis* Martynov の成虫の写真(写真1)を紹介しました。今回は、アメリカザリガニを駆除しているため池でサハリントビケラの幼虫を採取することができ写真に収めることができたので紹介したいと思います。サハリントビケラは、北海道および本州に分布し、本州では山地の池沼や溪流の緩流部に生息する北方種と考えられています。

サハリントビケラは、茨城県北部では標高約740mの高地、福島県猪苗代湖では標高約500m、同じく安達郡の県民の森にある人工池では標高約600mの高地で確認されています。宮城県鹿島台のため池は、標高約33mの里山にあります。このように標高のない平野の里山でもサハリントビケラの幼虫が採取されたことから、サハリントビケラは宮城県の里山に普通に生息しているのかもしれません。

トビケラの幼虫はイモムシのような形(写真2)で、一部の種の幼虫は、巣の素材に枯れ葉や樹皮片などを使い円筒形の巣を作る(写真3)ものも見られます。サハリントビケラの幼虫は、4齢までは枯れ葉や樹皮片などの素材で円筒形の巣を作り(写真4-A)、5齢になると巣の素材を枯れ葉や樹皮片などから砂粒へ徐々に変化させ(写真4-B)、最後には円筒形の巣の素材をすべて砂粒にし(写真4-C)(写真5)、蛹化に備え倒木や石などに巣を付け(写真6)、ふたをして(写真7)その中で蛹化します。成虫は春に成虫となり夏眠をした後秋に産卵します。



(写真1) 11月に撮影したサハリントビケラの成虫



(写真2) トビケラの幼虫



(写真3) トビケラの巣



(写真4) サハリントビケラの巣A、B、C

日本のトビケラの分類や生態の研究は発展途上にあり、ここ十数年の研究で多くの新種が発見され、いくつかの種のユニークな生態も分かってきています。現在、郷の会で保全活動をしているため池にも数種類のトビケラの幼虫がいます。その種をすべて同定するまでには至っていませんができる限り調査していきたいと思います。また、改めて水辺を取り巻く環境の奥深さを考えさせられました。今回、原色川虫図鑑の資料提供者であり、ホームページ「トビケラ専科」の野崎隆夫様に教授いただき、サハリントビケラの幼虫を同定することが出来ました。この場を借り感謝申し上げます。

皆さんも四季折々でさまざまな生物や植物、昆虫を観察できるこの活動に参加してみてはいかがでしょうか。



写真5 砂粒でできたサハリントビケラ巢と幼虫



写真6 枝についたサハリントビケラの巢



写真7

シナイモツゴ BCC 通信 322 号

(2020 年 4 月 11 日配信)

会員の情報共有のための配信メール (1~3 回/月) です。

受信ご希望の方はご連絡下さい。

皆様

おかわりありませんか？

例年より 10 日も早く桜が満開となり、すでに散り始め、春爛漫です。

理事長と副理事長が選出され、今月から新体制が発足しました。

新型コロナウイルス対策により会議、移動研修会、その他の活動が制限されています。

当面、野外の自然再生活動を中心に取り組みますので、ご参加ください。

新体制のご紹介

新役員の互選により理事長と副理事長が選出されました。

新理事長：高橋清孝

新副理事長：三浦仁一（留任：根元信一、安住芳朗）

旧理事長の二宮景喜氏には長期にわたり 2 代目理事長の重責を務めていただきました。

心から感謝申し上げます。

新執行部は貴重な豊かな自然を守り未来へ継承するため、引き続き多様な活動を企画し展開します。

皆様のご参加とご協力・ご支援よろしくお願いします。

イベント情報

1. 定例会・理事会

公民館会議室を使用できないため、当面中止します。

協議事項についてはメールなどで随時協議します。

2. 移動研修会中止のお知らせ

4 月 29 日に気仙沼方面の移動研修を企画していましたが、マイクロバスが使用できないため、今年は中止となります。ご了承ください。

3. 水辺の自然再生共同シンポジウム開催について

10 月に大崎市古川開催で企画していましたが、大規模集会を確実に実施できるか確定できない状況にあります。開催準備に長期を要することから、今年は WEB 会議・配信に切り替えて実施予定です。

現在、器材、アプリ、技術などについて情報収集しながら準備を進めています。

4. 水辺の自然再生-野外活動について

① アメリカザリガニ駆除活動

R2 年度の特別採捕許可が得られましたので、4 月 18 日（土）にザリガニ捕獲調査を実施します。

当会で開発した連続捕獲装置による捕獲が主体になります。

9:00 現地集合

参加希望される方は高橋までご連絡ください。

② 大崎生き物クラブによる小川の生き物観察会

小川の野外観察会のみ実施する方向で企画中です。

学童農園における座学や昼食会は行わず、午前の観察会終了後、解散します。

マイクロバスを利用できないので、定員を少なめにするなど調整が必要です。

6 月下旬実施予定です。（現在、8 月開催で調整中）

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。

小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。